

---

# ヴィオラートのアトリエ ~ クラーラさんの憂鬱

水守中也

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ヴィオラートのアトリエ～クラーラさんの憂鬱

### 【Zコード】

Z9952H

### 【作者名】

水守中也

### 【あらすじ】

アトリエシリーズ第5弾、ヴィオラートのアトリエの一次創作作品です。

首都ハーフェンから遠く離れたところに存在する、過疎化の進んだカロッテ村。その酒場で、ヴィオラート、ブリギット、クラーラ、人呼んでカロッテ三人娘が仲良く（？）ランチをとっているときのことだった。

アジの開き定食を食べていたクラーラが箸を止め、思いつめた表情を見せて言った。

「ねえ。ヴィオ。正直に答えてほしいんだけど……」「もぐもぐ。ん、何？」

「私つて、音痴なのかしら？」

「ぶつ！」

ヴィオラートはにんじんシェイク（材料：にんじん、シャリオミルク）を噴き出した。

「ちょっと、なにするの？。私のタンシオが…」

ブリギットが悲鳴を上げる。そちらはとりあえず置いておき、呼吸を整えてから、ゆっくりとクラーラに聞き返す。

「……えっと。どうしてそう思うのかなあ？」

「あのね。ハーフェンからの帰りのことなんだけど。山奥の森でおつきな妖精さんに襲われたでしょ」

「エルフのことですわね」

思い出すのも苦々しいといった感じでブリギット。

エルフとは、森に住む一族で、聖域を荒らすものに対してもどことん凶暴である。ほんのちょっと蜂の巣とか蜘蛛の糸とかぶどうとかを探らせてもらつただけなのに。彼らはいきなり姿を見せると、問答無用に魔法を放つてきた。ブリギットは早々にやられ、ヴィオラートもほうれん草でクラーラの体力を回復させたあと、力つきた。「私一人になつて。とにかく場を和ませようと『伝承のうた』を歌

つたの。そうしたら妖精たち、どんどん倒れちゃって。なんか生気が吸い取られたかのような感じで。おかげで私たちは助かつたのだけれど・・・・・・

伝承のうた、それは音痴なクラーラが歌う、敵一体を「マヒセセ」、さらに「<sup>ライフボイント</sup>」<sup>L.P.</sup>に大ダメージを「える」、文字通りの必殺技である。けどそんなこと本人には言えない。

「えつと、たまたまそのエルフの体調が悪かつたんじゃないかなあ。ほら、あたしとブリギットは何でことなかつたし」

「……そりや、わたくしたちは氣を失つていきましたからね」

「それにカロッテ遺跡で歌つたときは、何にも起こらなかつたし」

「……そりや、ゴーレムやゾンビには、もともと生命力なんてございませんからね」

「ブリギット！」

ブリギットは不機嫌な顔して、顔を拭いている。ヴィオラートが噴き出したシェイイキを。しかもタンシオの被害は絶大。それに加え、エルフにやられたことを思い出したのかもしれない。もっともブリギットの場合、ロードフリードさんの前にいるとき以外で、上機嫌なことなんて、あまりないけど。

クラーラさんは、今にも泣き出しそうな表情をしていた。ヴィオラートはとっさに立ち上がり、叫ぶように言つた。

「そうだ。歌が悪いんだよ、歌が」

「え」

「だつて伝承の歌つてなんか暗いんだもん。あれじゃ、みんな落ち込んじゃうつて。うん。それに、それに……カロッテ村なのに、にんじんが歌詞に入つていらないなんて、絶対おかしいよー！」

後半はヴィオラート、魂の叫びである。

それが届いたかはさておき、クラーラは、ぱあっと顔を輝かせた。

「そうよね。私、次はもっとかわいい歌を歌うわ」

機嫌を直したクラーラは、再びアジの開きに手を伸ばし、美味しに頬張つた。

とりあえずの危機は去った。とりあえずの……

「次回わたくしはロードフリード様と店番していますわ。今度の冒険には、お兄さまとでもいってらっしゃいな」

「そ、そんなあ……」

その後、クラーラの歌つた「ふにふにのうた」（にんじん関係なかつた）は「伝承」ならぬ、「伝説」として、カロッテ村に語り継がれていくこととなる。

(後書き)

クラーラさんの魅力にはまって、書いてしました。マイナー作品みたいで、知っている人だけにでも楽しんでいただければと思います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9952h/>

---

ヴィオラートのアトリエ～クラーラさんの憂鬱

2010年11月12日07時55分発行